

# 高千穂大学 教職課程だより

## ご挨拶

教職課程運営委員会委員長 松丸啓子

高千穂大学教職課程で学ばれた卒業生教員の皆様、今年度をもってご卒業される皆様、在校生の皆様、そして、様々な活動を通じて本学教職課程にご支援を賜っている皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のことと存じます。皆様の日頃からの本学教職課程運営へのご理解とご協力に対しまして、心より御礼を申し上げます。

この度、『高千穂大学 教職課程だより』第5号をお届けすることができました。この『高千穂大学 教職課程だより』の発行は平成27年度より開始されておりますが、その主たる目的は、本学の教職課程で学んだ卒業生の皆様と在校生たち、教職員その他の関係者たち相互の交流の輪を広げ、絆を深めるとともに、本学教職課程における教員養成のさらなる充実と活性化を企図することにございます。そのような趣旨からも、本年度におきましても引き続いて『高千穂大学教職課程だより』を発行することができましたことを、本学の教職課程運営に携わる者の一人として大変喜ばしく感じております。

一昨年度より、例年2月に開催されている「教員採用試験合格報告会」と同日に「高千穂大学卒業生教員と教職履修学生との情報交換会(高千穂大学卒業生教員の会)」を開催するようになりましたが、今年度も、第Ⅰ部の「教員採用試験合格報告会」において今年度の教員採用試験合格者による報告を卒業生教員の皆様にもご一緒にお聴きいただいた後、第Ⅱ部の「高千穂

大学卒業生教員と教職履修学生との情報交換会（高千穂大学卒業生教員の会）」において在校生たちと個別に交流もしていただき、おかげさまで非常に有意義な時間を共有することができました。お忙しいところご来校いただいた卒業生教員の皆様、誠にありがとうございました。まだまだ至らない点も多々あったかとは存じますが、そうした点を徐々に改めながら、さらにより良い会合を実施できるよう努めてまいりますので、今後とも皆様のお力添えを賜れば幸いです。

今年度は、「教員の資質向上」を目指して実施された文部科学省の教育改革に対応した教職課程再課程認定申請に教職課程運営委員会が中心となって取り組んでまいりましたが、おかげさまで本学教職課程は再認定を受けることができました。したがって、来年度入学者からは新しい教職課程のプログラムで学んでいただくこととなります。その学びの過程を通じて、新しい時代に求められる教員としての資質や能力を身につけることができるよう、本学教職課程における指導・サポート体制もよりよいものに改善してまいりたいと考えております。

「模擬授業室」や「教職相談室」も開設され、多くの在校生の学習の場として利用されております。本学の教職課程関係の環境は年々整備されてきておりますので、そうした環境をフルに活かしていくためにも、ぜひ卒業生教員の皆様との連携をさらに緊密なものにしていただければ幸いです。今後とも皆様の多大なご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

(人間科学部)

## 教育実習報告会（7月14日）

7月14日(土)に、「平成30年度 教育実習報告会」を開催しました。

報告者は、4年生のHさん(人間科学部)、Hさん(人間科学部)、Kさん(商学部)の三人。体験した教育実習について、それぞれ、パワーポイントと印刷物を使って丁寧に報告・説明してくれました。小学校へ行ったHさんとHさんからは、「授業の準備は計画的に行うべきだった」、「児童の発言を引き出し、その発言に基づいて授業を進めるべきだった」などの反省が、高校へ行ったKさんからは、「教師と部活(野球部)の顧問の両立に苦労した」などの体験が披露されました。これらのことを含めて、当日の三人の報告・説明は、これから教育実習を行う後輩学生に良い指針と刺激を与えるものであったと思います。

なお、報告会とは別に行った調査では、教育実習を体験した4年生全員が「教育実習に行ってよかった」と回答しています。また、教育実習後に「自分自身の学習に真剣に取り組むようになった」学生や、「教育問題にいつそう関心を持つようになった」学生が多数いることが分かっています。

(松丸修三)

※ 本報告会の様子は「Quarterly 高千穂」69号にも掲載されています。ご覧ください。

<http://www.takachiho.jp/library/outline/quarterly/69.pdf>

## 教員採用試験合格報告会（2月23日）

2月23日（土）に、「平成30年度 教員採用試験合格報告会」を開催しました。

ここでは、第1部「教員採用試験合格報告会」について、報告します。

第1部では、まず「教員採用試験合格の体験報告」として、三名の学生による報告が行われました。東京都教員採用試験合格者のOさん（人間科学部児童教育4年）、川崎市大学推薦による教員採用試験合格者のKさん（人間科学部児童教育4年）、東京教師養成塾特別選考合格者のNさん（人間科学部児童教育4年）による報告でした。

Oさんは、教員採用試験に合格するための取り組みについて報告してくれました。東京都では、大学推薦者に対しても専門教養や論文試験が今年度より課されるようになったことから、受験に際して一次試験、二次試験ともに十分な対策が必要なことを指摘してくれました。

Kさんは、自らが教員を目指した理由、特に川崎市の教員を目指した理由を述べた後、大学推薦に向けた日頃からの姿勢について詳細に報告してくれました。特に、教職課程教員やゼミ教員、先輩、そして川崎市教員志望の仲間達との勉強会への積極的な参加など、自ら積極的に様々な人の指導を仰ぐことを報告してくれました。Nさんは、東京教師養成塾での生活や指導内容、塾の大変さややりがいなどを教師塾の年間スケジュールとあわせて述べてくれました。

続いて、静岡県高等学校教諭M先生、練馬区の小学校教諭K先生による「卒業生教員の教育実践報告」が行われました。

お二人による「卒業生教員の教育実践報告」では、M先生は、教師のやりがいと生きがい、職務内容、商業科教諭としての授業での外部と連携した実践、そして、野球部での活動（なんと、昨年は静岡県大会準優勝）などについて、情熱的にご報告していただきました。「生徒の頑張るをサポートしたい。」「教師というよりもまずは、信頼される大人・手本となる大人であるべき。」という言葉は、きっと学生の心にも響いたことと思います。K先生は、現在小学校1年担任をされていることをふまえ、児童と先生としての自分との関わりを中心に、教師のやりがいや大変さ、楽しさ、目指す上での心構え等を、クイズも交えながらご報告いただきました。「ぜひ、同じ仲間として（みなさんと）一緒に頑張りましょう！」という先輩教諭ならではの締め言葉からは、先生としての優しさと指導者としての厳しさが含まれていたと思います。

会の最後には、第1部にもご参加頂いた卒業生教員の中から、横須賀市の小学校教諭Y先生、静岡県の高等学校教頭I先生のお二人による講評を賜りました。

ご参加頂きました、卒業生教員の皆様、学長、教職課程担当教員の皆様、また本学教職員の方々には深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。

(鈴木隆弘)

## 卒業生教員の会（2月23日）

第1部に続き、第2部として「卒業生教員と教職履修学生との情報交換会（卒業生教員の会）」が開催されました。

藤井耐理事長による挨拶の後、笹金光徳学長による乾杯が行われ、和やかなムードの中、卒業生教員同士、また卒業生教員と学生との懇談が続きました。

本年は幸いにも多くの学生、卒業生の皆さんが教員採用試験に合格することができました。参加者の中にも、合格者のOB教員がおられました。合格の報告には、会の途中でも大きな拍手が起こりました。

ご多忙の中、会にご参加頂きました、卒業生教員の方々をはじめ、理事長、学長そして本学教職員の皆様、また遠方より会にご参加頂いた先生方に深く感謝すると共に、来年もまた多くの卒業生教員の先生方にご参加頂きたく存じます。ありがとうございました。

（鈴木隆弘）

### ○本年度教員採用者について

平成30年度 新規教員採用者は7名（3月14日現在：教務課把握分：教諭採用者のみ）です。卒業生教員の皆様におかれましては、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

## 高千穂大学での教職課程担当を振り返って

上野 泰治

平成31年3月31日付で本学を退職することとなりました、上野泰治です。未熟な私を3年間サポートしてくださいました松丸啓子先生、鈴木隆弘先生、松丸修三先生、山田良一先生、そして教職課程事務ご担当の北田大介様に、心より御礼申し上げます。

教職課程業務に従事した3年を振り返ると、主に教員採用試験指導に奔走・迷走した3年間だったように思われます。もちろん、教職課程学生にとってのゴールは合格それ自体ではなく、教員になってから先にあるものだとは思いますが、そうはいっても、学生にとってはまずは受かることが目下の重要目標になります。実際のところ、私も昔は大学院入試やフェローシップ応募に躍起になりましたので、採用試験のことで頭がいっぱいになる学生の気持ちはとてもよくわかります。

2～3年前の東京都教員採用試験の倍率は3～5倍近くもあり、悔しい思いをした学生も多くいました。何人かはその後も挑戦して合格し、同期卒業生によるお祝い会に誘ってもらえるという嬉しい経験がありました。一方で、1度の教員採用試験不合格で教員になる道を諦めた学生も少なからずみられました。話を聞いていると、不合格をパーソナルに受け止める傾向、つまり、教員失格の烙印を押されたかのように考えてしまう傾向があったように思います。それに気づいて以降、公務員職に新卒合格することは当たり前のことではなく、何年もかけて挑戦することが全く恥ずかしいことではない、ということを学生に伝え続けてきました。例えば、私の専門分野では、家庭裁判所調査官などの心理職公務員を目指す学生が多くいます。心理職公務員にストレート合格することは教員以上に稀で、多くの学生が何年もかけて挑戦します。

もちろん、教員の他に素晴らしい仕事はたくさんあります。自分に向いているかもしれないと思う職種を別に見つけられたなら、その道に進むことが望ましいことは間違いありません。しかし、採用試験の不合格をパーソナルに受け止めることは全く不要です。どこまで伝わったかはわかりませんが、今の学生たちが教員採用試験を受けるにあたり、頭のどこか片隅にでも残っていてくれることを願っています。

末筆ながら、高千穂大学教職課程のご発展と、先生方、事務職員の方々、卒業生の方々、そして現教職課程学生のご健勝をお祈り申し上げます。3年間、どうも有り難う御座いました。

(人間科学部)

---

着任のご挨拶

「袖振り合うも他生の縁」 よろしくお願ひします

山田 良一

2018年4月2日、朝、閑静な住宅地の中にある高千穂大学の前に立ちました。守衛さんの爽やかな「おはようございます」の挨拶を受け、何とも心地よい、また、気の引き閉まる思いで門を潜りました。

これまで生まれて60年間、関西の地で生活をしてきましたから、まさか、東京で勤めることなど夢にも思っていませんでした。昨年3月末日まで、最後の勤務校、兵庫県姫路市立城東小学校での引継ぎや挨拶などに追われ、定年退職の余韻をかみしめる間もなく、関東へやってきました。大都会、東京は何から何まで驚きの連続でした。電車に乗るだけで迷子になるのではとひやひやでした。JR線、都営地下鉄、京王線と乗り継ぎ、高千穂大学へ向かうのですが、

---

現実感のないふわふわした感覚でした。一年近く経ちましたが、いまだに全く慣れていません。

人生の大半を過ごした姫路市を紹介します。姫路市は兵庫県では神戸に次ぐ第二の中核都市です。何ととっても世界遺産「姫路城」が全国手には知られています。「姫路城」は別名「白鷺（しらさぎ）城」とも呼ばれ、外観の白の漆喰がその美しさを際立たせています。隣の岡山にも城があります。岡山城は逆に黒の漆喰が施され、瓦とも合わさり全体が黒く引き締まった外観で、姫路の「白鷺（しらさぎ）城」に対して、「烏（からすじょう）城」と呼ばれています。是非、世界遺産「姫路城」をご覧の時には岡山への足を運んでみてください。

中核都市姫路市の人口は 53 万人です。調べてみますと第 1 位は神奈川県横浜市（372 万人）第 2 位は大阪市と続きます。そして、30 番目が杉並区の 56 万人、31 番目が板橋区と同じく 56 万人、その次が姫路市なのです。人口の数と順位が近いというだけのことですが、私にはとても杉並区が身近に感じられました。そして、歴史ある高千穂大学に勤務でき、教員を目指す学生の皆さんと共に学ぶ機会に恵まれたことに喜びでいっぱいです。

教員を目指す学生の皆さんの少し先輩にあたる私は公立小学校で 35 年間、教員として勤務してきました。教師は児童・生徒の人格の形成を目指す仕事です。私も教員生活を通して 500 人以上の子ども達と出会いがありました。成長した子ども達から

「先生、夢かなって、Jリーガーになれました」

「甲子園に出場します。応援をお願いします」

「先生、結婚しました。子どももこの春生まれました」

などなど未来が輝く子ども達の成長に目を細めることもたくさんあります。

しかし、一方では

「先生、もう学校なんか行きたくない」

そう言って、部屋に閉じこもったA君。

「先生、お母さんが・・・」

病気で早くに亡くなり、涙一杯のお葬式。

「先生、僕は誰から嫌われている」

そう書き残して、家を出たC君。(無事に戻ってきましたが)

子どもの数だけドラマがあるのです。そんな出会いが教師としての私を成長させてくれます。

子ども達が私自身の先生であったようです。また、たくさん子ども達と過ごす中で、同僚の存在も大きなものでした。

私の担任する子どもの問題で夜遅くに家庭訪問をし、学校に戻ると黙って温かいコーヒーを入れてくれた同期。大きな病気を隠し、笑顔で勤める先輩。職員室で遅くまで意見を交わした仲間たち。

これらの経験や体験、知識が今の私の教師観を作り上げています。教員を目指す学生の皆さんとここ高千穂大学で学び会えることはとても大きな喜びです。

改めて、高千穂大学の教職員の皆さまとの出会いに感謝すると共に、これから出会うであろう多くの方々とのご縁を大切にしながら学びを深めたいと思っています。

教職は未来を創造する仕事です。教師という夢に向かって邁進してください。その先には、あなたと出会うことを待ち望んでいる子ども達があります。その出会いを楽しみに一緒に夢を実現していきましょう。

(人間科学部)

<本学教職課程の概要について>

(1) 取得可能な免許種

高千穂大学教職課程では、以下の免許を取得することができます。免許状はすべて一種教育職員免許状です。

学部	専攻	取得可能な免許種
商学部		高等学校（商業）／高等学校（公民）／高等学校（地理歴史）／中学校（社会）
経営学部		高等学校（商業）／高等学校（情報）
人間科学部	人間科学	
	児童教育	小学校（全科）

※ 商学部では、高等学校（情報）／ 経営学部では、高等学校（公民）（地理歴史）・中学校（社会）免許状取得も可能。

(2) 年間行事

教職課程では、教職課程運営委員会の下、主に以下の行事を実施しています。

月	行事	内容
4 月	履修オリエンテーション	春学期履修に向け、学年ごとに実施します。
7 月	教育実習報告会	教育実習を終えた学生から、教育実習の体験をお伺いします。
8 月	教員採用試験対策講座	教員採用を目指す3・4年生の希望者を対象に、採用試験対策講座を行っています。
9 月	履修オリエンテーション	秋学期履修に向け、学年ごとに実施します。
11 月	新規履修者オリエンテーション	新規履修希望者向けにオリエンテーションを実施しています。
2 月	教職課程新規履修者面接	教職課程新規履修者希望者を対象に、面接を行い、履修の可否を決定します。
	教員採用試験合格報告会 卒業生教員の会	教員採用試験合格者及びお招きしたOB・OG教員より、合格までの道のりや教員生活の心構えなどをお話頂きます。

※教職課程履修者は「オリエンテーション」「教育実習報告会」「教員採用試験合格報告会」参加が義務付けられます。

### 卒業生及び卒業された皆様へ

- 勤務先の変更・ご自宅の住所変更時
- 「学力に関する証明書」「単位取得証明書」等、証明書が必要な時
- 教職課程及び就職課に対する、私立学校からの求人を知りたい時

以上の際には、学務部 教務課（TEL:03-3313-0146）までお問い合わせください。

平成 31 年度より、教職課程の制度が変更（新教育職員免許法施行による）になります。

科目等履修生に出願の際は、事前にお問い合わせください。

<目次>

- ご挨拶……………  
p.1
- 行事紹介……………  
p.2～3
- 本年度教員採用者について……………  
p.3

「高千穂大学教職課程だより」 第 5 号 平成 31 年 3 月 20 日発行

<平成 30 年度 教職課程運営委員会>

委員長	松丸啓子				
常任委員	鈴木隆弘	委員	上野泰治	委員	楠美将彦
委員	小林康一	委員	松丸修三	委員	山田良一
教務課	北田大介		山本路子		